



地域の資源と特性を活かした 都区内の防災訓練



東京都板橋区加賀五四自治会
会長 竹澤 喜孝

1 加賀五四自治会について

当会は世帯数約2,700世帯、自治会員世帯数ほぼ1,300世帯。戦後米国進駐軍のGHQ管理番号が54であった処から「五四」の所以になっています。名の通り江戸時代には加賀藩の下屋敷があった広い地域です。今は大型マンションが林立し子育ての若い世代が集う板橋区内でも一番住みやすい活力ある地域かと自負しております。また大学事業所研究所福祉施設などの法人や事業所も多くあります。この加賀地域の真ん中を石神井川が流れており、都内といえども緑と自然に恵まれた地域でもあります。なお、東京消防庁から今まで取り組んできた地域防災が評価され、令和5年度の「第20回地域防火防災功労賞」の最優秀賞（東京消防総監賞）を受賞しました。

2 地域の資源と特性を活かした 具体的な取り組みについて

①林立する大型マンションとの大規模な合同防災訓練の実施

自治会や大型マンションの防災訓練は単独で実施されるのが一般的です。そのために横軸での合同訓練を実施するのがなかなか困難な状況です。2年前は関東大震災100年の節目の年でもありました。そういう中であって当会は東京都の「関東大震災100年町会・自治会防災力強化助成」を活用して、当会とグランフィーネ加賀、プラウドシティ加賀の管理組合との共同共催による「住民自主防災訓練」を実施すること

ができました。また令和6年10月には東京都の「令和6年度東京都地域の底力発展事業助成」及び「東京とどまるマンション普及促進事業」を活用して、グランフィーネ加賀とシティテラス加賀、プライマージュ加賀の3つの管理組合との合同防災訓練を実施することができました。訓練当日は板橋消防署のはしご車の出動、板橋消防団などの応援を得て、約300名という多くのマンション住民の参加となりました。AED応急救護・水消火器・防災展示・炊き出し・D級ポンプ・防災遊びなど各コーナーにスタンプラリー形式にして親子で楽しみながらの防災訓練となりました。このように東京都の防災の助成事業などうまく活用



自治会と3つのマンションとの合同防災訓練テント本部



スタンプラリー防災展示コーナー

して大型マンションとの合同防災訓練を実現することができました。

②給水ステーションの設置に伴う応急給水訓練の実施

当会のエリアには東京都水道局の板橋給水所（給水量26,600m³）があります。この給水所の分画化に伴い「災害時応急給水ステーション」が設置されています。住民防災訓練に合わせて給水手順などの確認をかねて応急給水訓練も実施しています。



応急給水訓練の様相

③「法人連絡会」による地域の関係づくり

当会には20余りの法人事業所があります。毎年「法人連絡会」を開催しています。防災訓練・防災講話・法人の事業所訪問紹介、時には地域内地下の下水道トンネル工事見学など企画し、加賀エリアの共通の課題やテーマについて意見交換の場となっています。このようにイザという時にも連絡とりあえるような法人同士の関係づくりも当会が主催して担っております。



法人連絡会「加賀の防災検討会」模様

④当会記念誌をきっかけに「加賀防災マップ」の合同企画作成発行配布

当時（令和4年）の板橋消防団第一分団長から当会で令和元年に発刊した「創立70周年記念誌」に掲載されていた「加賀マップ」をベースに、「加賀防災マップ」を作成できないかとの相談がありました。何か月か入念に時間をかけ、裏面には防災情報も織り込んで「加賀防災マップ」を作成発行しました。これらは防災という観点から当会員以外に加賀地区の住民や事業所にも4,000部を配布しました。これも東京都の「町会・自治会による防災対策普及啓発事業助成金」を活用しました。日常生活や散策時などに使ってもらえるようにイラストタイプにして工夫もしました。



身近に使えるイラストタイプの「加賀防災マップ」

3 今後の防災への取り組みについて

今後「加賀まちづくり協議会」とも連携して、従来のマンション住民法人事業所単位の防災対策から、また昼夜の人口差（昼の人口が夜の5倍）が大きいなど昼の防災対策など含めた総合的な「加賀防災エリアマネジメント」の構築を進めていきたいと考えています。それにより加賀エリアとしての地域の資源を活かした更なる地域防災力の充実を図っていけるのではと思っています。